

夢、広がる！！ つながい



福祉“共”育

子どもたちの健やかな成長と豊かな心を育む
誰もが住み慣れた地域で
安心して暮らせる街をめざして・・・



福祉教育を通じて子どもたちに伝えたいことは
一人ひとりが生きる喜びを感じることができるよう
「ともに生きる力」を育むことを目標とします。



社会福祉法人彦根市社会福祉協議会
地域づくりボランティアセンター

このハンドブックは、福祉教育を通じて先生や児童・生徒の皆さんに伝えたいこと、実践を通じて協力者それぞれの思いを伝えるために作成したものです。

ハンドブックをご一読いただき、福祉に対する思いや理解が深まればと思います。

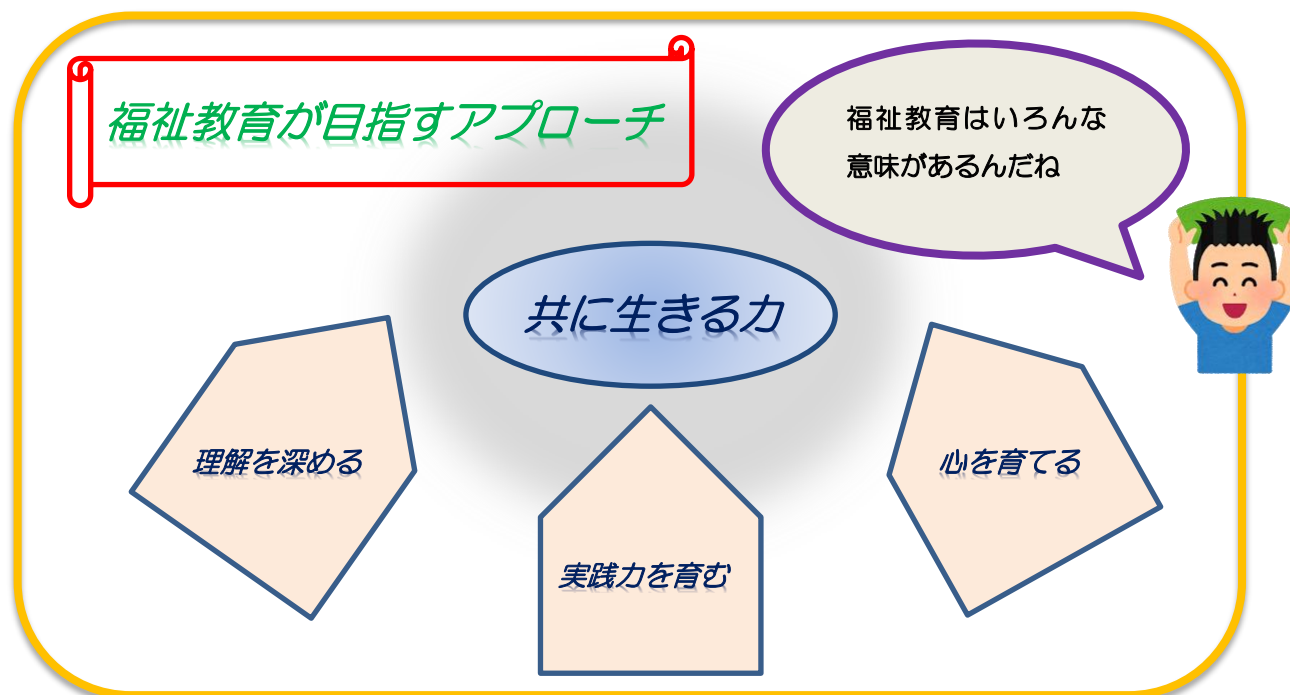
1. 「ふ く し」ってなんだろう

『福祉』は「**ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ」を叶えることです。そして、その中で「自分にできることは何か？」を考えたり、そのために「実際に行動していくこと」だと子どもたちに伝えています。

また、福祉は自分のことだけでなく、周りの人も大切に思い、一人ひとりそれぞれの考えや生き方を尊重して「ともに生きる力」を培うことであると言えます。

人間関係が希薄になってきたと言われる現代社会の中で、普段の暮らしの中でちょっとした見守りや気遣いなど、さりげないことも“ふくし”につながっています。自分が住んでいる地域にはいろんな人が暮らしていることを理解し、自分ができる手助けをすることなんだと気づいてくれます。子どもたちには自分にもできそうなこととして、福祉を身近に捉えてもらえるのではないのでしょうか。

そして、これからも「福祉：ふくし」とは決して特別に考えるものではなく、言い換えれば普段から自分自身や周りにいる人のことを気に掛け、そこに住んでいる大人も子どももみんなが笑顔で幸せに暮らしていくために、自分たちでできることやお互いにできることを助け合いながら“共”に生きていくことだと、子どもたちに伝えて育んでいきたいと思っています。

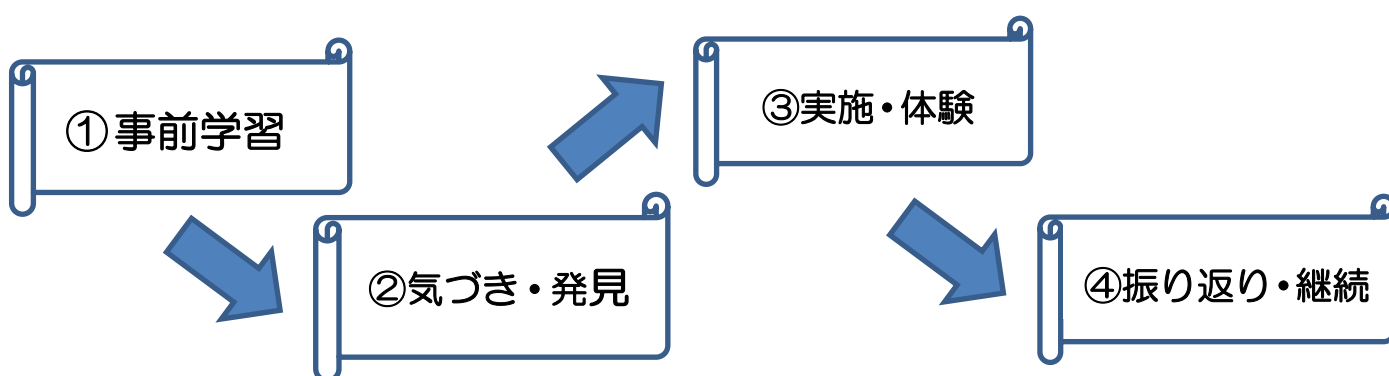


2. 福祉教育がめざすもの

福祉教育は、児童・生徒一人ひとりが地域に住む一人の住民として、一緒に気づき・ともに学び合い、そして、活動につながるものであると言えます。

児童が実践や体験を通じて「おもしろかった」「また、やりたい」という純粋な感想を持つことももちろん大切ですが、福祉教育が目指す本質はその体験を通じて児童が何を感じ、何に気づいたのか、何を学んだのかを、体得してもらうことと考えています。

福祉教育では以下の4つのプロセスを重視して進めていきます。



一連の福祉教育での出会い、体験、学びを通じて福祉の視点を学び、体験や講師の方からの「気づき」を共有化することで、児童・生徒には有意義な時間につながることもなります。

自分の住む地域から困っていることに気づく。そして、自分には何ができるのかと、できることを考える。自分のできごとと相手のできごとを認め合いつつ、お互いの「できること」を活かして支え合うこと、同じように暮らしていくことの大切さに気がきます。

いろんな人と関わることで、自分自身のことを考え、相手や他人を理解する機会にもなります。

福祉教育は人と人との出会いの中で「ふくし」と「ひと」を知ることでもあります。



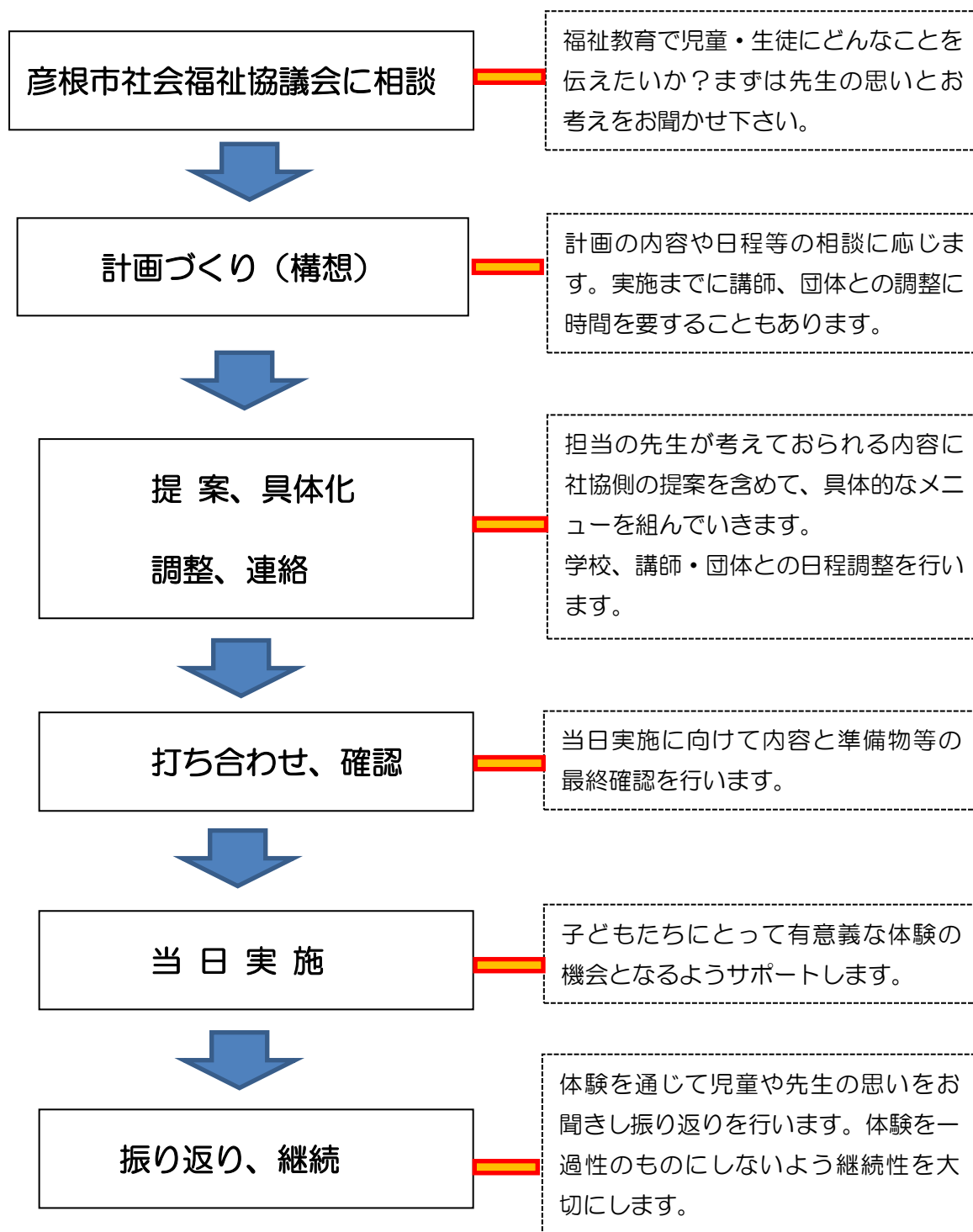
福祉教育は、「身近なこと」や
「自分たちのできること」を
考えるきっかけになります



3. 福祉教育実施の流れ

まずは先生の思いをお聞かせください。先生が福祉教育を通じて児童・生徒に伝えたいことは何か？先生と児童・生徒に寄り添った福祉教育を一緒に考えます。

講話や体験を通じて、児童一人ひとりが地域の“人”として、ともに考え学び合うことで気づきを深める福祉教育を提案したいと思っています。



4. メニュー参考一覧



福祉の話 (導入)

「ふくし」とはなにか・・・いろいろな福祉の体験をする前に、そもそも福祉は自分たちの生活にどう関係があるのかを一緒に考えるきっかけを提唱します。

手話体験

聞こえない当事者の話を聞き、聞こえない人が伝える方法として手話があり、自らも言語以外で相手に伝える方法を学びます。

アイマスク体験

目の見えないことを体験し、どのような苦勞や不自由、不安があるかを感じます。目の見えないといってもいろいろな障がいがあり、その種類や特徴を学び理解を深めます。

車いすユーザー講話

実際に車いすを利用して生活しておられる方に日常生活での過ごし方や気持ちの変化、今までの体験を話してもらいます。

車いす体験

車いすの構造、各部の名称、使い方を学び、実際に車いすに乗る体験と介助者側としての役割を体験し、それぞれでのポイントを学びます。

点字体験

見えないとはどういうことか、点字の成り立ちを知り、実際に自分たちで点字板を使って点字を打つ体験をします。

視覚障がい者講話

目の見えない当事者から話してもらうことで、気づきを得てもらいます。また、実際に盲導犬と生活しておられる方からは、普段の盲導犬との生活についても話してもらいます。

その他

学校や先生からの要望や希望に応じて、福祉教育のメニューと一緒に考えます。必要に応じて本会職員や外部講師に依頼します。



5. 協力いただいている方、団体の声

共に生きることを 伝えたい



村岡 京子 さん

彦根手話サークル「^{しおん}指音」



私たちは学校や地域の集まりなどで体験を通じての啓発活動を20年しています。耳が聞こえないと言葉だけでなく、情報が遅れることの困りごともあります。手話の体験では手話そのものが先行してしましますが、まずは「気持ち」が伝わるのが大切です。

以前に手話体験をしてくれた人が、後日出会った時に手話を使って話してくれたことが嬉しかったです。子どもたちが会話によって身振り手振りを交えて交流しながら、伝え合う中で「伝えよう」と工夫してくれるのが嬉しいです。

手話は難しいと思っている人がいるかもしれませんが、上手下手は関係なく、「伝えたい」という気持ち大切です。将来、耳の聞こえない人に出会ったら学校で体験した手話を思い出してもらえたらいいなという思いで、これからも子どもたちに伝えていきたいと思っています。

気づきを得て、感じてほしい

子どもたちに障がい者の団体があるということ、みんなの周りに障がい者がいるということを知ってもらうためにボランティアを始めました。世の中に出たら困っている人がいっぱいいます。将来、自分の家族が障がいを持つことがあるかもしれない。自分が元気な時に障がいへの理解を深めてほしいと思っています。

毎回協力させてもらっている車いすの体験ですが、一回の体験だけではすべて分からないと思いますが、その中で子どもたちが何かを感じ、どう考えるか、気づきを得てもらえるといいと思います。そして、福祉のことを考えていろんな障がいを持っている人がいることを見て感じてほしいと思っています。



中村 裕次 さん

彦根市身体障害者更生会



6. 子どもたちの“声”

福祉教育を受けた子どもたちの声をまとめました。話を聞いたり、実際に体験することで子どもたち自身がいろいろな気づきや考えを巡らせてくれました。

福祉は普段の生活を幸せにすることだから、自分たちも友達を大切にしてみんなで仲良くしたいと思いました。

車いすでもスポーツを楽しむことができること、少しの段差なら手伝ってもらえれば登れることなどを知りました。



点字を打ってみて、こうやって点字をつくっていくということを初めて知りました。目の見えない人にとって、点字はとても大切なものだと思います。

耳の聞こえない人に出会ったら、手や空にかいて伝える方法があることを知り、困っている人がいたら助けたいと思いました。

今も、これからも
心は子どもたちと一緒に・・・



2018年(平成30年)3月発行



**社会福祉法人彦根市社会福祉協議会
地域づくりボランティアセンター**

彦根市平田町 670 彦根市福祉センター別館1階
【TEL】(0749)22-2821 【FAX】(0749)22-2841